



しらかし

目指す生徒像
尚学・共生・雄健

- ・自主・自学の向上心をもって学ぶ生徒
- ・温かい心で、よりよい人間関係を築く生徒
- ・めあてをもって心身を鍛える生徒

令和2年度
第18号
3月24日発行
文責：小野
電話：022-356-8055
E-mail:shirakashi-jh@
rifu.ed.jp



しらかし台中学校 第29回卒業式 挙行 ～104名の旅立ち～



3月6日(土)、保護者の皆様に御列席いただき、令和2年度第29回の卒業式を厳粛な雰囲気の中、挙行することができました。

新型コロナウイルス感染症対策として、規模を縮小した形となりましたが、校長先生より卒業生一人一人に卒業証書が手渡され、凛々しい姿で証書を受け取る姿に、これからの前途に固い決意と大きな夢を描いているように感じました。

式 辞

校長 木下 裕士

ここ十符の里の桜が、今年も蕾をふくらませ、次第に柔らかな光を感じるようになってきました。本日ここに、第29回卒業式を挙行するにあたり、御来賓の皆様のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。子どもたちが、たくましく成長し、無事卒業できますのも、ひとえに、皆様方の御支援の賜物と存じます。ありがとうございます。

卒業式に当たり、保護者の皆様に、先ずもって心よりお慶び申し上げます。保護者の皆様におかれましては、さまざまな思い出が、心の中で駆け巡っておられるのではないかと存じます。また、これまでの三年間、本校の教育活動へ、御理解と御協力をお寄せいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。御卒業おめでとうございます。皆さんは本校の最上級生として数々の足跡を残しました。体育祭では、下級生に対して厳しく、そして優しく接し、リーダーシップを発揮して全校が一つに燃え上がりました。特に、大声等の規制がある中、カラー毎に工夫を凝らした応援合戦は、見る人の心を魅了し、開校以来の伝統を感じました。

時期も方面も大きく変更せざるを得なかった修学旅行でも、皆さんの時間等の約束事を大切に集団行動は見事でした。最終日の雨の中的那須ハイランドパーク、マスク越しにも分かるみなさんのはじけた笑顔も忘れられません。また、中総体の代替として行われた最後の練習試合や演奏会などでは、自分の限界に挑戦するために全力で汗を流しました。県駅伝大会中止が決まった後にも、後輩に練習の仕方・心構えを教え、伝統を継承したいと、朝早くから、大会を見据えたような激しい練習に取り組んでいた姿にも感動しました。下級生をリードし、しらかし台中学校の新たな一ページを刻んだのが、卒業生の皆さんであることは間違いありません。おそらく後輩に脈々と引き継がれていくことと思います。

卒業される皆さんへの はなむけの言葉として「2つのこと」をお話します。

「ありがとうございますと素直な気持ちで言える人になってほしい」

～中略～

「周囲からありがとうございますと言われる人になってほしい」

～中略～

君たち104名は、まさに我々職員にとって自慢の生徒であり、地域の宝です。そして、あなた方は間違いなく二十一世紀の担い手であり、希望の光です。そういった気概をもち、自分の信じる道を一步一步力強く、しっかりと歩いていくことを願っています。そして、みんなが育ったこの地区は、あなた方のふるさとであり、いつでもどんな時でもあなた方の心の支えとなってくれるに違いありません。卒業生の皆さんの限りない前途を祝福するとともに、幸多からんことを心から祈念し、式辞といたします。



答 辞

卒業生代表

日差しに少しずつ春の訪れが感じられる頃となりました。陽の暖かさを受け、柔らかな風に背中を押されるようなこの良き日に、私たちしらかし台中学校3年生104名は卒業します。

卒業式の開催さえ危ぶまれるこの状況の中で、私たちのためにこのように素晴らしい式を挙げてくださいましたこと、また、お忙しい中、御臨席を賜りました来賓の皆様、卒業生を代表して心より感謝申し上げます。

～中略～

中学最後の大会。感染症の影響で大会が中止になった部もありました。代替試合を開催できた部も思うような練習ができず、大きな悔いが残りました。それでも3年間、少しずつ積み重ねた努力は、私たちの自信になりました。休校中も大会の開催を信じ、走り続けたこと、対戦する相手を想定して、自分たちの良さを引き出す練習方法を考えたこと、私たちは本当に強い心を手に入れました。

楽しみにしていた修学旅行。全員が待ちに待ったイベントでしたが、旅行先と期日の変更を先生方から告げられ、目に見えない敵を恨んだこともありました。研修先も少なく、「これで楽しめるのだろうか」と心配なまま、当日を迎えました。実際に、行ってみると、歴史と自然、そして大切な仲間達に囲まれ、予想をはるかに超えた収穫がありました。不安の中でも、自分たちで研修先を決め、自分たちの力で何とか乗り切ることができました。苦労した分だけ喜びは大きく、「このメンバーだから楽しかった」と心から感じました。

そして、最後の体育祭。後輩への指示や密にならない構成など、今年ならではの体育祭を考えました。最初は、みんなのアイディアはまとまらず、他のクラスを見ては、本当に成功するのか、勝てるのかと、不安が募るばかりでした。でも、当日はしらかしが一体となって一つの行事を作り上げました。それぞれのカラーの工夫と努力がぶつかり合い、最後まで互角の戦いが続きました。どんなに制限があっても、どんなに大きな不安があっても、クラス、カラー、学校が一つになって最高の瞬間を見せることができました。最後のリレーでは各カラーのプライドがぶつかり合い、見た人の心まで動かし、自分たちにしかできない体育祭が完成しました。そして、何より、出来ることを最大限にやり切って、みんなで笑い合ったことが最高の思い出になりました。

～中略～

最後に、3年生のみんな。ついに卒業です。周りを見渡してください。3年の時を共に過ごした仲間を見ると、あの時のこんな思い出やあんな思い出が蘇ると思います。そんな当たり前だった日常も今日が最後です。毎日友達と歩いた道も、もう明日からは一緒に歩けません。9年間、毎日いろいろと感想を言いながら食べていた給食も、もう明日からは食べられません。朝読書の時間、「本を読みなさい」と注意されることも、廊下でじゃれあい、叱られることも、もう明日からはありません。何よりも、克恵先生の大きくて高い、学校中に響き渡る声を聞くことも、もう明日からはできないのです。卒業の嬉しさもあるけれど、とても寂しいです。教室で、廊下で、いつも当たり前について、笑い合えるみんなと過ごした日々が、今日終わってしまうこと、本当に信じられません。今まで、ずっと一緒にいてくれてありがとう。

明日からは、一人一人がそれぞれの人生を歩んでいくことになります。これは、「別れ」ではなく「分岐点」であると思います。またどこかで必ず、再会する日が来る。その時には、このしらかし中で過ごした最高の日々を一緒に懐かしみたいと思います。

改めて、今日私たちはしらかし台中学校を卒業します。中学校という思い出の詰まった場所に、大きく手を振り、次の新たなステージを歩んでいきたいと思えます。

本日、お集り頂きました皆様にご感謝申し上げますと共に、皆様方の御健康とますますの御発展をお祈り致しまして、答辞いたします。

